



2013年 6月 19日

みなさん、こんにちは。空梅雨による水不足が心配でしたが、やっと梅雨らしくなってきました。農作物にとっては恵みの雨ですね。さて、今回は6月13日（木）に「明石公園の植物観察会」が行われた時の様子をお伝えします。講師は「兵庫県立人と自然の博物館」：自然環境評価研究部長の高橋晃氏。



今回、高橋先生は明石公園内の木々を中心に説明して下さいました。木の葉と葉脈、木肌を見て、何科の木で、どんな実がいつ頃なるのかを説明。そして、人の生活においてはどのような場面で活用されるのかを分かりやすく教えて下さいました。参加者は9名でしたが、熱心にメモを取りながら先生の話に聞き入っておられました。中央の写真は木の中は空洞になっているが、まわりに支えられて立っているという現象です。木の中心部分が死んでしまってから何百年も立っている木も珍しくはないそうです。



しょうようじゅりん
㊦照葉樹林の一部

㊧柿の木特有の木肌

うじょうふくよう
㊨羽状複葉

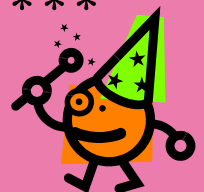
(※照葉樹林—葉の表面の照りが強く、キラキラとしたはね返りがある樹木)

(※羽状複葉—5つに切れ込みが入っており、5枚セットで1枚の葉)

他にも興味深いお話を聞かせて下さいました。クサギ（臭木）という日当たりの良い所に見られる落葉樹の生き残り戦略について。それはクサギの葉は臭いが、花はとても良い香りがするというもの。葉はしっかり光合成をする為に虫に食べられないよう臭くなり、花は虫を寄せ付け受粉するために良い香りを漂わせるという戦略。こんな自然界の木々の知恵を聞きながら明石公園を回っているとあっという間に2時間が経ってしまい、参加された9名の方も皆楽しかったと笑顔で植物観察会を終えました。*****

明石の森とふくろう 福田好克展 【関連イベント】

- ・「作家による作品解説」6月23日（日）14時～15時。
 - ・「学芸員による作品解説」7月7日（日）11時～、14時～。
- (※どちらも当日自由参加、要観覧料)



では、次回の「博物館だより」をお楽しみに。